

高齢者の社会参加を促す工芸プログラムに関する試験・研究開発（第2報）

－ 福祉視点での工芸体験キット「菱刺模様小箱」の開発 －

Study on craft programs to promote social participation among the elderly (2nd report)

-Development of a welfare-oriented craft experience kit, "Hisizasi embroidery small box" -

濱田 圭、赤田 朝子、工藤 洋司、川守田 礼子*、山田 友子**

（* 八戸工業大学感性デザイン学部、** NPO 法人なんぶ民藝）

本報では、フレイル予防を目的として開発した工芸キット「菱刺模様小箱」について報告する。

県内工芸体験調査として、南部菱刺しのワークショップを開催している「つづれや」での体験において、その作業時間、難易度、講師とのコミュニケーションなどの要素について調査した。その結果、菱刺しの布の縦目、横目を数えることや、数え間違いにより発生する手戻りが時間ロスや体験者のストレスにつながると考えられた。そこで、これを解決する方法として、材料を布ではなく革とし、①布目を数える必要を無くするためレーザー加工により刺し子・刺繍の模様に応じた糸を通す穴をあける。②刺す順番を分かりやすくするためレーザー加工により糸を通す道順を彫刻する。という2種の加工を施した試作キットを製作した(写真 1、2)。

このほかに薄板に同様の加工を施した試作品も製作した。実際に針に通した糸での作業は薄板にあけた穴には通しにくく、穴を大きくすると隣り合う穴との距離が縮まるため薄板の強度が低下する、穴の間隔を広げると模様がまばらになり美観を損ねるという問題があり、③糸自体を硬化し針を使用しないことで解決した。

今後の技術移転に向け小箱の量産方法について検討中である。また、特許名「被刺繍体、刺繍製品製作用キット、刺繍製品製作用糸、刺繍製品、被刺繍体製造方法、およびフレイル予防改善方法」として出願中である。



写真1 菱刺模様小箱

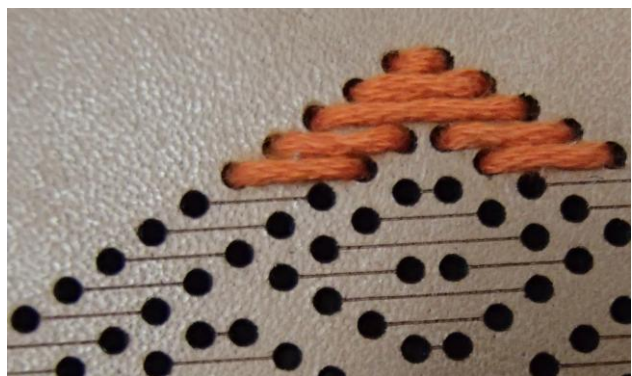


写真2 細部拡大